

平成 28 年度  
金沢大学ステークホルダー協議会  
実施報告書

平成 28 年 7 月  
国立大学法人金沢大学

## 概 要

日 時：平成28年7月9日（土） 16:00～18:50

会 場：本多の森会議室〔金沢市石引4-17-1〕

協議会：第一会議室（1F）、交流会：第三会議室（2F）

プログラム：

|       |         |
|-------|---------|
| 16:00 | 開会      |
| 16:03 | 挨拶・近況報告 |
| 16:20 | 意見交換    |
| 17:50 | 交流会     |

出席者数：111名

【内訳】

学外：65名

卒業生5名，高等学校6名，自治体4名，企業等19名，  
地域19名，保護者5名，元事務職員4名，報道機関2名，  
経営協議会委員1名

学内：46名

学生23名，教職員23名

※学内の列席者等（31名）を含めると総勢142名

## ステークホルダーのご意見

### 企業関係者

①産業界は大変厳しい状況に置かれ、企業としては産学で連携した強さを重視している。特に、地元企業としては金沢大学に期待する面が大変大きい。グローバル人材、優秀な人材を求めると同時に、教員には、共同開発をより積極的に行って欲しいと思う。レベルの高い教員に対して理解を持って協力したい。また、金沢大学が高い評価得られるように、われわれも地域企業として応援したいと思っている。

②グローバル化の取り組みとして大学が目指す指標を教えて欲しい。

③金沢大学の航空宇宙研究について教えて欲しい。

### 金沢大学の回答

①目標を高く掲げて教育研究等に一層努力したい。

地元企業との共同研究については、工作機械に注目している。北陸は工作機械メーカーが多いのが特徴なので、今後さらに強化できると考えている。日本のナショナルセンターとして次世代を担う存在になれるよう、取り組みたい。

②世界・各地域・各分野で活躍する人材育成の取り組みの一つであるインターンシップの開発・実施を今後さらに広く展開して行きたいと考えている。また、指標の一つとして、平成 26 年度採択された文部科学省 SGU 事業で推進しているさまざまな取り組みにより、10 年後には、2,000 人の留学生を受け入れることを目標としている。そのためにも、大学院での英語による授業の割合を原則 100%にしたいと考えている。また、学生の半分くらいは留学させたいとも考えている。大学院としては、海外の企業とのラボローテーションを増やすことを考えている。※SGU：スーパーグローバル大学創成支援事業

③本学の宇宙理工学は、観測するグループと宇宙の電波を探るグループがある。現在、さまざまなチャレンジを行っており、平成 36 年には小衛星を打ち上げる計画で進めている。学生には日本の航空宇宙開発政策を担う研究・開発機関に進んでもらいたいと願っている。

### 高等学校関係者

SSH, SGH, SPH や教育ゼミナール等において、教員・学生に協力してもらっている。また、県内の教職員は金大出身者が多く、発足した教職大学院に大変期待している。教員の人材育成に関してどのようなビジョンをもっているのか教えて欲しい。

※SSH：スーパーサイエンスハイスクール、SGH：スーパーグローバルハイスクール、SPH：スーパープロフェッショナルハイスクール

### 金沢大学の回答

連携ゼミや学校教育アドバイザー等の教員による支援事業をさらに充実させるとともに、石川師範塾との連携や新しい推薦制度の導入等、より実質化した形で石川県教育委員会との連携プログラムを開発し、優秀な学生を県内に呼び込むようなことを考えていきたい。

## 自治体関係者

小木小学校は国の補助を受けて海洋教育のモデル校となっている。また、小木には県の水産センターや臨海実験センターがあり、海洋教育には適した環境である。しかし、まだ海洋調査については遅れているため、金沢大学には、能登を環境調査の拠点として活用していただきたいと願っている。

### 金沢大学の回答

学類改組の検討の中で、生命理工系の学類設置についても検討しており、既に人員を小木に着任させている。本学が地域に対してお願いしたいことは、施設に関する支援。一方、本学は、小学校教育等の協力ができる。大学と地域の相互協力が必要である。なお、本学の臨海実験施設は、全国の教育関係共同利用拠点施設として、他大学も利用しており、交流人口に貢献できている。また、水産学の他に観光学についても検討しており、引き続き、地域の協力をお願いしたい。

## 国際関係機関

我々JICA に対し、発展途上国との学術交流、研修生の受け入れ等、さまざまなプログラムで協力いただいている金沢大学は、現在、国際化を改革の柱として推進している。私たちも支援できればと思っており、金沢大学と連携協定について検討できればと考えている。

### 金沢大学の回答

本学としても、是非、連携協定の早期締結を目指したい。

## 地域（国際）関係者

海外との協定をさらに拡充していただきたい。また、学生には、休学してでもどこか海外に行って、海外を見てきて欲しいと願っている。

海外留学でのさまざまな経験はとても大事なので、海外でのリスクを恐れることなくチャレンジして欲しい。また、留学を受け入れることも大事である。

## 同窓会・卒業生

①金大の魅力の一つとして、高校生や社会が引き付けられる、多少ドキッとするような特徴的なものがあるのもいいのではないかと。

②共通テストには疑問を感じている。例えば、アーティストとか直木賞候補者とかが参画するような、大学の独自性を打ち出した取り組みを期待している。

③事務局は教員と協働して、入試前の高校回りや就活に向けた企業回りを行って欲しい。

④環日本海域環境研究センターは、幅広い研究分野なので、同センターの研究を大学全体のテーマにして、独自性を出してはどうかと思う。

⑤文部科学省の公募事業の採択状況を見ると、きちんとテーマを整理し、公募要領のポイントを押さえて申請している大学が採択されている。金沢大学の各教員は素晴らしい研究を行っておりチャンスはあるのだから、大学内で情報を共有して、皆の知恵を集めて、採択比率をあげてもらいたいと思っている。現在の状況と展望を教えて欲しい。

### 金沢大学の回答

①②大学のブランディングの一つとしては国際化を掲げている。「金沢大学の出身者はみんな英語が話せる」というようなことが定着できれば良いと思っている。平成35年度からの入試方法の変更に備え、さまざまな検討を行っているところであり、いくつか特徴的なことを導入したいと考えている。既に公表している文系一括入試と理系一括入試の他に、文系理系を問わない入試についても検討している。また、特定の能力に秀でる生徒を入学させ世界に輩出することやトップエリート人材を地域に残すことも使命だと思っている。

②本学独自の個別入試については、求める生徒像に対し大学としての理念をもって、一括入試等ならびに人物評価や高校での活動評価等のさまざまな視点で検討している。また、高大接続システムの一つとしては、H28年度に採択された文部科学省 GSC 事業の推進がある。

※GSC 事業：グローバルサイエンスキャンパス事業

③法人化後、毎年予算が 1% ずつ削られ競争的資金に回されている。教員数は増えているものの競争的資金には期限があるため雇用環境としては厳しい状況である。そのような状況の中でも、事務局は積極的に教員と協働している。

④環日本海域環境研究センターは、文部科学省の共同利用・共同研究拠点に採択されたばかりであり、現段階では、環境計測に重点を置いている。日本の環境センターとしてトップに立てるよう、海外とのネットワークを強化・拡張し、その研究成果を社会に還元したいと考えている。その上で、文系理系への拡張も視野に入れていく。

⑤5~6 年前から URA を 10 名程採用し、データを一箇所に集め精査させた上で、チームで、公募事業の申請を行っている。一昨年から 2 年続けて、メディア（サンデー毎日）の外部資金採択ランキングにおいて国立大学で 2 位になった。今後は、公募事業内容に迅速に対応して、詳細な情報をいち早く取りに行く必要があると思っている。

※URA：リサーチ・アドミニストレーター（大学等における研究マネジメント人材）

## 保護者

県外に進学した学生もいつかは金沢に戻って来てほしいと思っている。魅力あるまちづくりに対して、金沢大学が取り組んでいることがあればご紹介して欲しい。

### 金沢大学の回答

学問的には各分野で、例えば地域の政策課題に関与する取り組みを行っている教員が多数いる。連携協定を結んでいる複数の自治体と地域の特色を生かしながら活動している。また、地域にある企業との連携も重視しており、ネットワーク群としての連携も考えている。

今は特にCOC事業で、さまざまなプロジェクトを推進している。(現在21プロジェクト)

また、昨年度からCOCプラス事業も開始し、県下の8大学と全自治体と関係企業とでネットワークを構築し、インターンシップの拡充・実施等に取り組んでいる。地域の魅力を学生に理解してもらい、5年間で就職率が10%アップすることを目標に掲げ、推進している。

※COC事業、COCプラス事業については「私たちの金沢大学2016」16ページをご参照ください。

## 学生

駐車場の有料化について詳しい説明はあるのか？また、違反者をどう取り締まるのか？

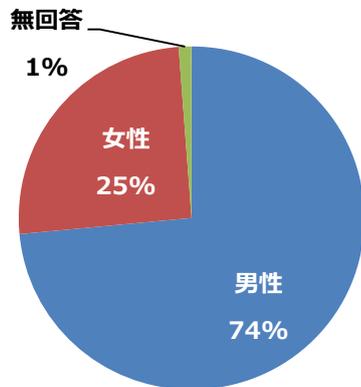
### 金沢大学の回答

具体案がまとまり次第、全学に対して説明する。複数の利用パターンが考えられるので1日単位での料金設定も考えている。また、ゲートは設けないが違反取り締まり巡視の強化等、正規の駐車手続きを行った利用者が不利益を被ることがないように、方策を講じる。

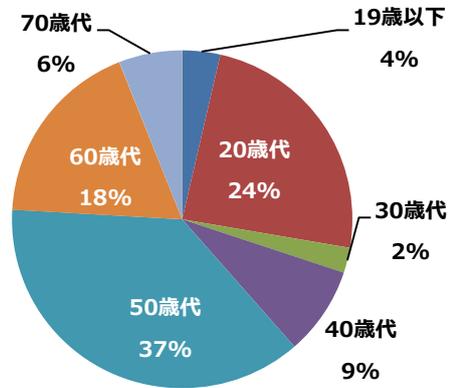
# アンケート結果

回収件数〔回収率〕：83件〔82%〕

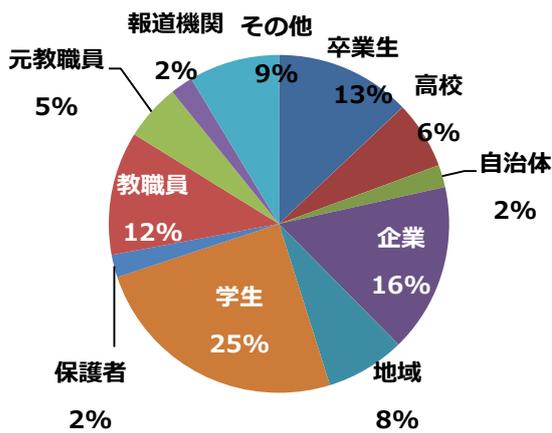
【1】性別



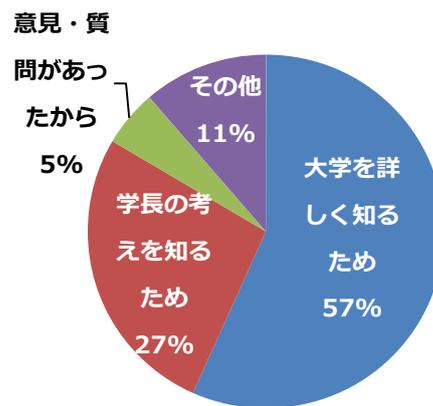
【2】年齢



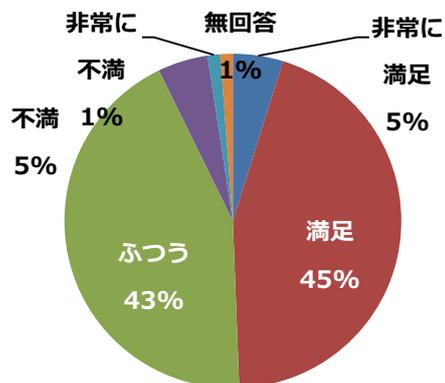
【3】大学との関係区分



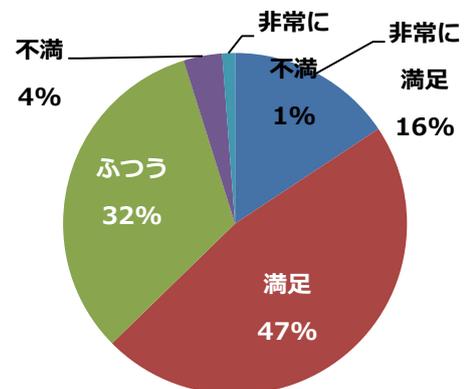
【4】参加目的



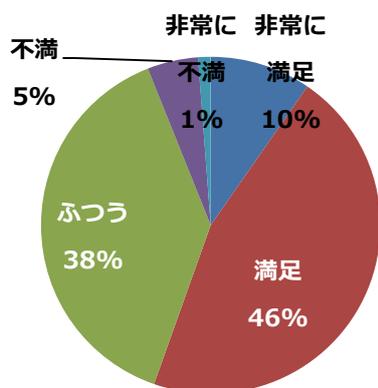
【5】近況報告について



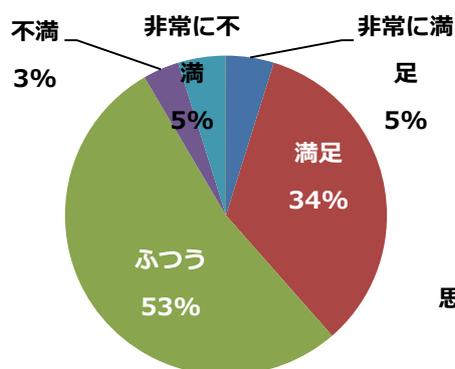
【6】配付資料について



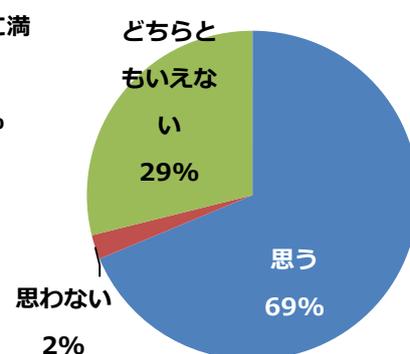
【7】質問への対応について



【8】進行について



【9】次回の参加希望について



【10】ステークホルダー協議会についての主な意見

- ・広く関係者に近況を伝える良い取り組みだと思います。準備は大変だと思いますが、継続できると良いと思います。
- ・学生の立場として参加しましたが、学外の様々な人たちが大学に関わっていることを実感できました。みなさん忙しいとは思いますが、せつくなのでもう少し時間があると良いと思います。
- ・時間がもう少しあれば、より多分野の質疑や説明を受けることが出来たのではないかと思います。
- ・テーマが多岐にわたり、幅広く意見が出てきたが、次回はそれぞれの意見がどのように発展したかを報告いただきたい。
- ・大学関係者や卒業生の方ばかりがお話なさっておられました。多少強引にでも外部の方の意見を聞く機会を設けてはいかがでしょうか。

【11】金沢大学に対する主な意見

- ・民間企業との産学連携の在り方について、企業側が望むものと大学側の考えが一致、或いはすり合わせできているのだろうか。例えば、共同研究については、企業側が知らない（どうやって申し込むのか）ケースもあると思われる。もっと様々なやり方でアピールしてもよい。県内外の企業で共同研究したいというニーズはもっとあるだろう。
- ・I believe Sub-Saharan African students are talented and therefore I am hereby recommending the Kanazawa University Administration to top his talent as we move forward together. Thank you.  
 （意識：私は、サブサハラアフリカの学生は才能があると確信しているので、私たちがともに前進するよう、この国の優秀な人材に金沢大学の運営に加わるよう薦めたいと思っています。ありがとうございます。）
- ・大学の方針、現在行っているプロジェクトの現状はほとんどの学生が知らないことだと思うので、このような機会は貴重だと思います。このような内容を多くの学生が知ること、大学のかかげる目標に近づくと思うので、もっと多くの学生に話を聞かせる機会を作ってはどうでしょうか？組織の中の自分の位置づけを知ること大切だと思います。

## 当日の様子





発行・編集 金沢大学総務部  
〒920-1192 金沢市角間町 電話 076-264-5111